

風を感じて No. 310

R2.4月

春風がいい地よい季節となりました。

皆様いかがお過ごしでしょうか。 うさぎ

編集原誠一、文代
4/1 TEL FAX
0968-26-4339

(麦) 上の写真は裸麦です。穂がすっかり出揃いました。



暖冬の影響で生育が早かったです。3月中旬ごろから穂が出て始めました。あまりにも早い出穂に驚き、そして、朝方の霜を大変に配しましたが、霜で枯れることはありませんでした。穂が出てすぐの、やわらかい緑色の穂は、いかにも春らしく、また美しい姿をしていましたので、毎年花ビンに生けて、家中でも楽しんでいます。

下の写真は小麦です。裸麦と小麦とでは、葉っぱの様子が全く違うのがおわかりでしょうか。穂はまだ出ています。まだ朝方冷え込む日があるとのことで、出始めのころのやわらかい穂が霜で枯れないことを願うばかりです。



(田植え) 每年5月上旬に行っていた「どろんこ交流会(田植え)」は、中止させて頂きます。新型コロナウイルスのことを考えたとき、5月上旬までに完全に終息しているとは思えませんので、今回止むを得ず、中止させて頂きました。

下の写真は、3月中旬に撮った堤防の風景です。菜の花が満開のころで、堤防一面が黄色に染まりとてもきれいでした! あれから2週間経ち、今では



桜の花が満開です。が、今年はお花見は控えました…。何も(?)配ることなく、普通に生活したい。と誰もが願っているところです。一日も早く終息することを心から願っています。

食品ロス・孤食を解決!

フードバンク---食べられるのに捨てられてしまうような食品を寄付してもらい支援を必要としている人々に提供する「フードバンク」という活動が近年増えてきているようです。家庭や企業から集まつた食品は、社会福祉協議会などを通じて支援を必要としている世帯や、子供食堂に配分されます。

外見では貧困がわかりにくい現代ですが、育ちざかりの子供が満足に食べられるように支援することはとても大切です。又、食品の支援は、子供だけではなく、働き手となった大人の人にも必要です。

命を救い、成長を支えるためにも、企業をはじめ、個々の家庭からも、「食のお守りわけ」の活動が広がって欲しいものです。

子ども食堂---核家族化や共働き世帯の増加とともに、子供の「孤食」も増えています。そこで、無料又は低価格で地域の子供たちに食事を提供する「子ども食堂」も、各地で次々とオープンしています。「次世代を担う子供たちは、地域ぐるみで見守りたい…温かいごはんを囲んで(手)作りの気持ちにならいでいい…」そんな気持ちが込められています。運営は、各地様ですが、ひと月1~2回の開催であっても、子供たちにとっては、食事の楽しさを体験できる大切な場となっています。

ふれあい食事会---高齢化が進んで、現代では、お年寄りの見守りを兼ねて、食事を提供する取り組みも、全国で広がっています。食事を待つ間、介護予防のための健康体操をして、認知症予防の話を聞いて、と、各地様々が工夫をされています。

同じ地域に住んでいても、家が離れていて会う機会が少なくて寂しいため、食事会は互いの元気を確認することができる…と、参加者は喜んでボランティア

このように、食品ロスや孤食の問題に取り組んでおられる方がたくさんいらっしゃいます。本当に頭の下がる思いです。

飲食に苦しみ人がいる中で、食料をむだにしていいはずがありません。

豊饒のあまり、食の大切さが忘れ去られた現代…「みんなで支え合い、分から合て食料を消費する」。このことが強く求められています!